

令和3年度 学校評価シート

学校名：専修学校 クラーク高等学院 姫路校

目指す学校像	「社会で活躍できる人材育成」
育てたい生徒像	1. 基礎学力と基本的な人間力を身につけ、将来の夢を見つけることができる生徒 2. 非認知能力を向上させ、変化する社会で主体的に行動できる生徒 3. 一人ひとりが3年間を全うし、卒業後の希望進路実現を目指す生徒

本年度の重点目標	1 基礎学力を定着させ、自学自習の習慣をつけさせる
	2 ピア学習やプレゼンテーション活動等を通して、豊かで逞しい人間力を養成する
	3 教職員のチーム体制を再構築し、進路実現をさせる

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					令 和 3 年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	<現状> 在校生の80%が不登校経験、学力不振等の課題を抱えている。また、学力差が大きく学習意欲の低い生徒が多い。 <課題> ・学力把握と基礎学力の定着 ・学力上位層のさらなる実践力向上 ・学習環境の整備	基礎学力の定着	・チームティーチングによる指導体制の確立 ・基礎学力チェックテストの実施	・計画的に授業進行ができたか。 ・基礎学力の定着が図れたか。	複数教員による指導体制を確立したが、基礎学力の定着は十分ではなかった。	B	・基礎学力の定着度に合わせて放課後学習を紐づけ、一人ひとりの学習コーチングを強化する。
		朝学習への取り組みの改善	担任、教科担当による情報共有と共通の声掛け	・個々の習熟度に合わせた学習計画を立てられたか。 ・自主的に学習を進められたか。	習熟度に合わせて教材を有効活用できたが、学年が上がるにつれ学習意欲の低下が見られた。	B	・朝学習による学力向上を様々な観点から評価し、モチベーションアップを図る。
		放課後の学習環境の整備、体制の強化	教科担当と上級生(学力上位層)による実施体制の強化と適切な告知、案内	・年間スケジュールの告知 ・教員役の上級生の役割を明確化し、協同学習ができたか。	・スケジュールに合わせた体制が十分ではなかった。 ・上級生のモチベーションが上がらなかった。	C	・個々の希望進路に合わせた必要な学習内容を明示し、学習意欲の向上を目指す。
2	<現状> 主体的に表現することに苦手意識を持つ生徒が多い。効果的なピア学習、プレゼンテーション活動が成立していない。 <課題> ・3年間を通じた支援、指導体制の確立 ・多様な生徒への対応 ・個々の活動記録と振り返り	ピアアシスタント基礎課程の取得	年間を通じた継続的な指導	1年修了時に取得できたか。	目標を明確化して取り組めたが、コミュニケーション力の低い生徒への支援が十分ではなかった。	B	・1年次の年度末に基本的なコミュニケーション力が習得できるようにピア学習の指導法に改良する。
		効果的なプレゼンテーション活動	2,3年次における継続的な指導	・各年次の年間指導計画を構築、実施できたか。 ・生徒自身の満足度	・各授業間の連携、情報共有を図ることができた。 ・生徒個々が成長を感じることができた。	A	・プレゼンテーションの授業での取り組みや評価を教員間で共有し、個々の成長を促す。
		ポートフォリオの徹底	・3年間を通じた活動記録の蓄積 ・適切な振り返り活動	・目標の設定、実践の確実な記録 ・次の活動へ向かう振り返りができたか。	・各活動における明確な目標設定ができた。 ・自己評価が2年次で下がり、3年次で再度上がった。	B	・3年間を通じた一つひとつの活動が成長につながるよう工夫する。
3	<現状> 1年次の進路指導が不十分なため、生徒、保護者ともに意識が低い。不安定な大学進学率と進路決定率。 <課題> ・1年次からの進路指導の徹底 ・教職員間の情報共有や指導力の差 ・個々に合わせた受験対策	進路3ヶ年計画の見直しと明示	・進路指導課による計画の再構築 ・保護者会と三者面談での継続的な進捗確認	・多様な入試への対策を構築できたか。 ・生徒、保護者の満足度	教員全体で3ヶ年計画共有できたが、保護者の巻き込みが不十分だった。	B	・進路3ヶ年計画による成果、課題を分析し、次年度以降の活用方法を再検討する。
		複数教員による進路指導体制の構築	・情報共有の徹底と進捗確認 ・進路指導課による研修	・定期的な会議を実施できたか。 ・複数教員で指導できたか。	・2,3年生については情報共有を徹底できた。 ・担任による指導と学習指導のバランスが取れた。	A	・生徒の情報・進捗に基づき、複数教員で役割を分担した進路指導を徹底する。
		多様な希望進路に対する指導力の向上	・定期的な授業巡回 ・授業力と面談力の研修	・管理職による授業巡回と面談を実施できたか。 ・定期的な研修の実施	・定期的な巡回、各教員への聞き取りを実施できた。 ・計画的な研修の実施ができなかった。	B	・授業力と面談力向上の相乗効果を図る研修を計画、実施する。

学校関係者評価	実施日 令和4年2月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>時期に応じた学習指導や年間を通じた放課後の学習環境を提供できたことは評価いただいた。学力差や基礎学力の向上に対する課題が浮き彫りになっているため、不登校生徒への支援が重要。また、国語力の向上が他教科への学習意欲につながると考えられるため、1年次の指導がポイントになると意見をいただいた。学習に対する姿勢を主体的に持たせることが、学習体制に対する満足度の向上へつながることを再確認した。</p> <p>コミュニケーション力やプレゼンテーション力を養成する良い取り組みであると評価いただいた。一人ひとりの情報、状況の共有を徹底し、多様な生徒に対する工夫を凝らすことが重要であり、さらなる成果を生み出すことを期待されていた。活動についての振り返りでは、次の活動を想定し、目標の再設定を行うことを確認した。</p> <p>多様な希望進路に対して、様々な工夫が見られる進路指導であると評価いただいた。丁寧な一対一対応にも感心されていた。進路3ヶ年計画に加えて、日々の教育活動や取り組みを頻繁に保護者へ共有することが、進路への意識を向上させるのではないかと提案いただいた。複数教員によるチームでの進路指導体制の確立、個々の指導力向上を常に意識してほしいという意見をいただいた。</p>	